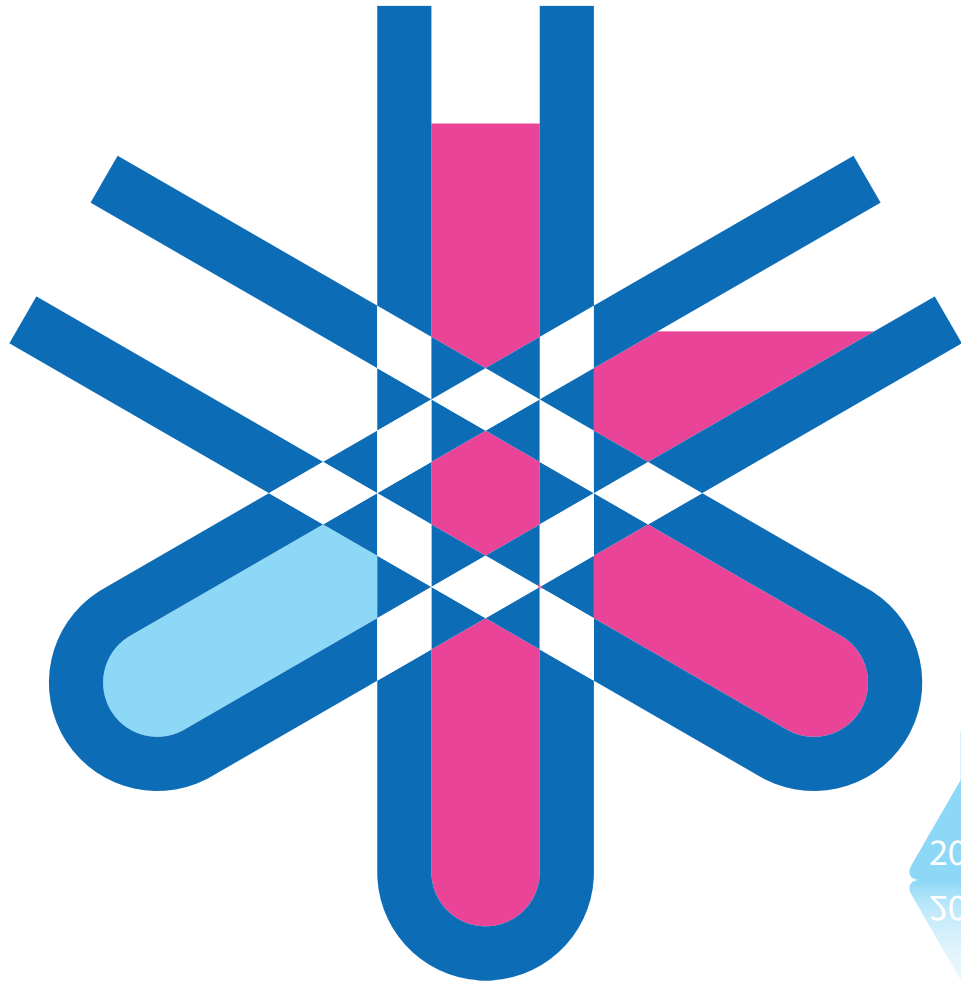


横查情報月報



横浜市衛生研究所

令和元年10月号 目次

【検査結果】

医動物・種類同定検査結果(令和元年7月～9月)	1
アレルギー物質を含む食品の検査結果(令和元年7月～8月)	2
夏期食品収去検査結果(令和元年度)	4

【感染症発生動向調査】

感染症発生動向調査報告 9月	6
----------------------	---

【情報提供】

衛生研究所WEBページ情報	11
---------------------	----

医動物・種類同定検査結果(令和元年7月～9月)

医動物担当では、人の健康を害し、人に不快感を与える昆虫、ダニ、寄生虫等の試験・調査・研究を行っています。

その中の一つとして、各区福祉保健センター、各市場検査所、事業者などの依頼を受け、昆虫類を中心とした種類同定検査を行っています。種類を同定することによって、発生源、発生時期、人に対する害などが分かると、効果的な対策を立てることにつながります。

令和元年7月から9月の3か月間の、種類同定検査件数は、昆虫類1件(ハチ目)、その他の節足動物2件(クモ目1件、ダニ目1件)でした。

検査結果の詳細は以下のとおりです。

相談内容・発生状況等	写真 (状態、体色、大きさ)	同定結果	生態・その他
就寝中にアリに体の上を這われた。 (7月)	 働きアリ、褐色、3mm	オオズアリ (ハチ目)	裸地、林内に生息し、大きなコロニーを形成する。基本的に土中営巣性であるが、その場合でも石下、倒木下、塀や壁ぎわを好む。朽木中に営巣することもある。成虫はアブラムシの甘露や花蜜を好む。幼虫の餌は、昆虫類などである。
アパート玄関の電灯下のガス給湯器にクモが巣を作っていた。 (7月)	 成虫、黒褐色、雌25mm、雄13mm	オニグモ (クモ目)	家の軒下や周囲の樹間で普通にみられる大型のクモ。夜間垂直円網を張り、昼間は物陰に潜む。日本全土に分布する。
就寝時に何かに刺されているようで、かゆみがある。 (5月)	 チリダニ類 成虫、赤褐色、0.2～0.3mm  ツメダニ類 成虫、赤褐色、0.4mm	チリダニ類、ツメダニ類 (ダニ目)	チリダニ類はカーペット、ふとん、畳などの室内塵からごく普通にみいだされる。ヒトを刺咬することはない。 ツメダニ類は、自由生活性で、室内では室内塵中のチリダニ、コナダニ類を捕食する。刺咬されると痒みを伴った皮疹が起こる。

アレルギー物質を含む食品の検査結果(令和元年7月～8月)

現在、食物アレルギーの原因となることが知られている食品原材料のうち、発症数が多いものや重篤度の高いもの7品目(卵、乳、小麦、そば、落花生、えび、かに)が特定原材料として指定されています。加工食品にこれら特定原材料を含む場合、その旨を表示することが義務付けられています。しかし、表示の記載漏れや製造・調理施設での混入(コンタミネーション)等により、食物アレルギーを持つ人がその食品を知らずに食べることで、じん麻疹、下痢、呼吸困難等のアレルギー症状を引き起こし、中には死に至るケースもあります。そのため、横浜市では主に特定原材料の表示がない食品の検査を行い、食品の安全を確認しています。

令和元年7月及び8月に健康福祉局食品専門監視班がインターネットで購入した食品と市内結婚式場で収去した食品について、卵、乳、小麦の検査を行いました。今回、これらの検査結果を報告します。

1 卵の検査

原材料に卵を使用していないとされる食品16検体について、卵の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表1)。

表1 卵の検査結果

検体名	検体数	陽性数
菓子類	7	0
そうざい類	5	0
レトルト食品	1	0
冷凍食品	1	0
調味料類	1	0
その他	1	0
合計	16	0

2 乳の検査

原材料に乳を使用していないとされる食品15検体について、乳の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表2)。

表2 乳の検査結果

検体名	検体数	陽性数
菓子類	5	0
そうざい類	5	0
レトルト食品	2	0
冷凍食品	1	0
調味料類	1	0
その他	1	0
合計	15	0

3 小麦の検査

原材料に小麦を使用していないとされる食品15検体について、小麦の検査を行いました。ELISA法によるスクリーニング検査の結果、全て陰性(10ppm未満)でした(表3)。

表3 小麦の検査結果

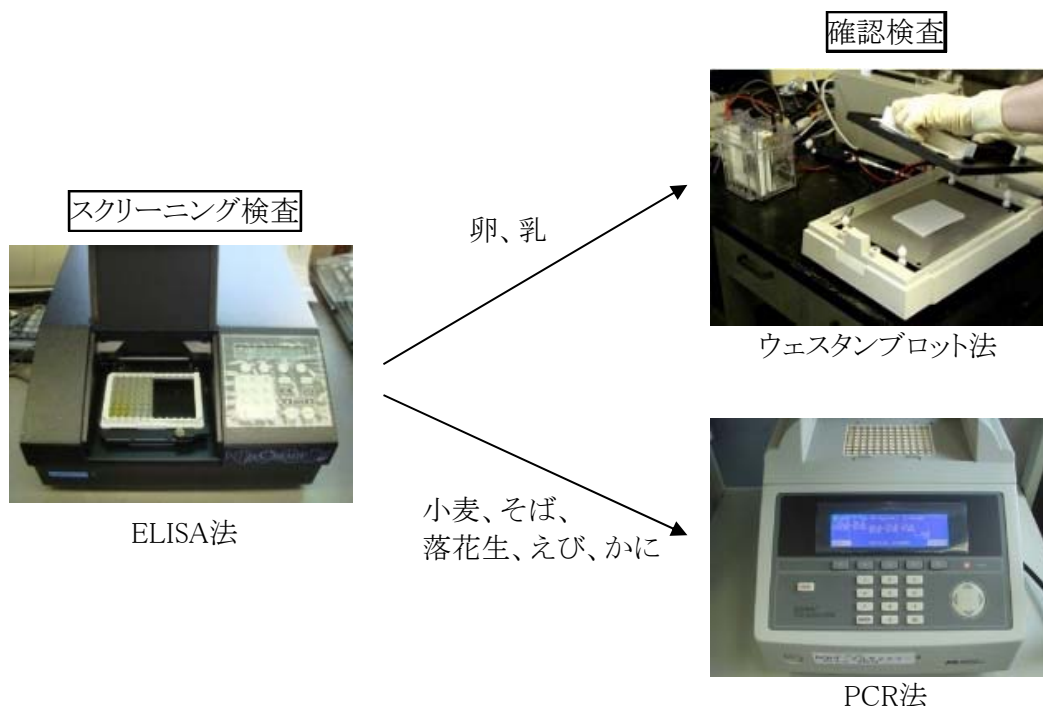
検体名	検体数	陽性数
菓子類	7	0
そうざい類	2	0
レトルト食品	2	0
冷凍食品	1	0
調味料類	1	0
その他	2	0
合計	15	0

「スクリーニング検査」と「確認検査」について

アレルギー物質を含む食品の検査では、まず、スクリーニング検査で陽性の可能性がある検体を選び出します。今回の検査では全て陰性でしたが、陽性の場合、別の検査法で再度陽性の確認を行います。

スクリーニング検査で用いるELISA法は、抗原抗体反応を利用して食品中に含まれる特定のタンパク質(アレルゲン)を検出する方法です。しかし、ELISA法では食品の加工度合いや使用原材料によって偽陽性となることがあります。そのため、スクリーニング検査で陽性となり、原材料表示に特定原材料の記載がなかった場合は確認検査を行います。

確認検査にはウェスタンブロット法とPCR法の2種類があります。卵、乳については、電気泳動によりタンパク質を分子量で分離して抗原抗体反応を行うウェスタンブロット法を用い、小麦、そば、落花生、えび、かには、特異的なDNA領域を増幅して検出するPCR法を用いて確認します。



【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

夏期食品収去検査結果(令和元年度)

夏期食品等一斉点検は厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官から出された「令和元年度食品、添加物等の夏期一斉取締りの実施について」の通知に基づき、夏期に多発する食中毒等食品による事故防止と食品衛生の確保を目的に全国一斉に実施されるものです。

本市においては令和元年6月3日から8月30日までを夏期取締り期間と定め、一斉点検を行いました。そのうち、健康福祉局食品専門監視班と福祉保健センターによる収去で搬入された検体について、当所が行った食品添加物検査と細菌検査の結果について報告します。

1 食品添加物検査

搬入された176検体(輸入品87検体、国産品89検体)の食品について、清涼飲料水、野菜類・果実及びその加工品などを重点的に、保存料、着色料、甘味料など3,429項目の検査を実施しました(表1)。

その結果、炭酸飲料(清涼飲料水)1検体から表示にない赤色40号(着色料)を検出し、一方で、製品に表示されている青色1号(着色料)が検出されなかったため、製造所を所管する自治体が現在調査しているところです。その他の検体はいずれも食品衛生法及び食品表示法に適合していました。

表1 食品添加物検査

令和元年6~8月

食品分類	検体数	違反検体数	項目数	検査項目							
				保存料	着色料	甘味料	酸化防止剤	漂白剤	発色剤	品質保持剤	その他
魚介類加工品	21		188	27	136	5		12	8		
肉卵類及びその加工品	9		143	27	102		3		9		2
穀類及びその加工品	9		102	6	85		3	1		7	
野菜類・果実及びその加工品	23		431	66	323	33	1	8			
菓子類	25		450	57	306	39	48				
清涼飲料水	39	1	1066	330	646	86	4				
酒精飲料	10		232	48	170	5	8	1			
かん詰・びん詰食品	15		247	57	153	16	19	2			
その他の食品	25		570	96	406	35	32	1			
合計	176	1	3,429	714	2,327	219	118	25	17	7	2

【 理化学検査研究課 食品添加物担当 】

2 細菌検査

細菌検査の内訳は、清涼飲料水・弁当・そうざいなど192検体528項目(表2)でした。

検査の結果、規格基準^{*1}違反はありませんでしたが、ゆでめん・むしめんで細菌数超過・大腸菌群陽性の衛生規範^{*2}不適が1検体、洋生菓子で大腸菌群陽性の衛生規範^{*2}不適が1検体、弁当・そうざい類で細菌数超過の衛生規範^{*2}不適が1検体ありました。

^{*1} 規格基準とは、食品及び添加物について食品衛生法第11条により基準、規格を定めたものことです。

^{*2} 衛生規範とは、弁当、そうざい、漬物、洋生菓子及び生めん類について定められた衛生的な取り扱い等の指針のことです。

表2 細菌検査結果

令和元年6～8月

食品分類	検査 検体数	検査 項目数	違反・不適 検体数	違反・不適理由
魚介類				
生食用鮮魚介類(刺身用切り身等)	8	8		
冷凍食品	3	6		
肉卵類及びその加工品				
食肉製品(ハム・ソーセージ等)	3	10		
乳製品(ナチュラルチーズ)	1	1		
アイスクリーム類・氷菓				
アイスクリーム類	2	4		
氷菓	4	5		
穀類及びその加工品				
生めん・餃子の皮	7	21		
ゆでめん・むしめん	11	33	1	細菌数超過、 大腸菌群 陽性
野菜類・果実及びその加工品(浅漬)	1	1		
菓子類				
洋生菓子	3	9	1	大腸菌群 陽性
菓子類	1	3		
清涼飲料水				
清涼飲料水	28	28		
ミネラルウォーター	3	9		
その他の食品・ふきとり				
弁当・そうざい類(加熱処理品)	50	150		
弁当・そうざい類(未加熱処理品)	41	188	1	細菌数超過
ふきとり(器具等)	26	52		
合 計	192	528	3	

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

横浜市感染症発生動向調査報告 9月

《今月のトピックス》

- 麻しんの報告が2件ありました。
- 腸管出血性大腸菌感染症が多く報告されています。
- RSウイルス感染症の報告数が多い状態が続いています。
- 風しんの報告数が多い状態が続いています。
- 手足口病の流行警報が発令されています。

◇ 全数把握の対象

〈9月期に報告された全数把握疾患〉

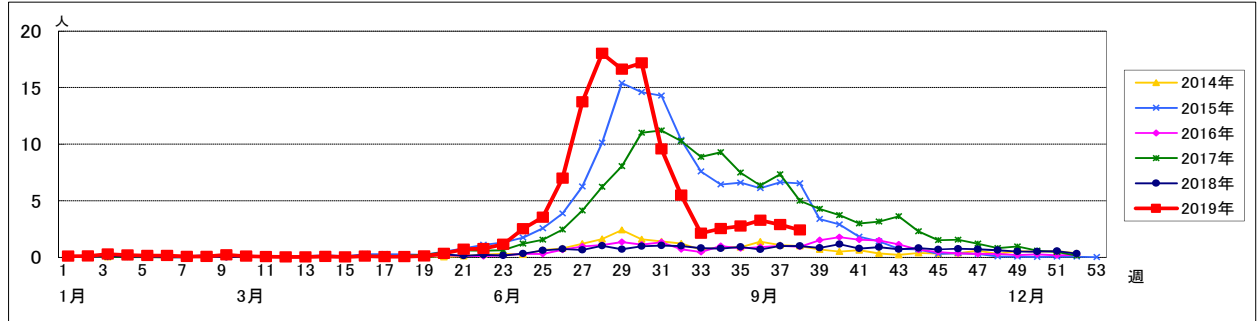
コレラ	1件	クロイツフェルト・ヤコブ病	1件
細菌性赤痢	1件	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2件
腸管出血性大腸菌感染症	16件	侵襲性肺炎球菌感染症	2件
A型肝炎	3件	水痘(入院例に限る)	1件
デング熱	4件	梅毒	13件
レジオネラ症	4件	百日咳	24件
アメーバ赤痢	7件	風しん	17件
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	5件	麻しん	2件
急性脳炎	1件	-	-

- 1 コレラ:インドでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 2 細菌性赤痢:ミャンマーでの経口感染と推定される報告が1件ありました。
- 3 腸管出血性大腸菌感染症:O157が12件(うち無症状病原体保有者が4件)、O26が1件(無症状病原体保有者)、O121が1件、O不明が2件ありました。
- 4 A型肝炎:同性間性的接触と推定される報告が1件、異性間性的接触と推定される報告が1件、感染経路不明の報告が1件ありました。
- 5 デング熱:蚊からの感染と推定される報告が4件(タイ2件、フィリピン1件、ミャンマー1件)ありました。
- 6 レジオネラ症:肺炎型の報告が4件ありました。
- 7 アメーバ赤痢:腸管アメーバ症の報告が7件ありました。感染経路は国内での異性間性的接触が1件、海外での経口感染が3件(タイ2件、ベトナム1件)、不明が3件でした。
- 8 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症:5件の報告がありました。
- 9 急性脳炎:10歳未満の病原体不明の報告が1件ありました。
- 10 クロイツフェルト・ヤコブ病:古典型CJDの報告が1件ありました。
- 11 劇症型溶血性レンサ球菌感染症:B群が2件ありました。
- 12 侵襲性肺炎球菌感染症:10歳未満の報告が1件(ワクチン接種歴あり)、70歳以上の報告が1件(ワクチン接種歴あり)ありました。
- 13 水痘(入院例に限る):10歳未満の臨床診断例の報告が1件(ワクチン接種歴不明)ありました。
- 14 梅毒:13件の報告(無症状病原体保有者4件、早期顕症梅毒Ⅰ期5件、早期顕症梅毒Ⅱ期4件)がありました。感染地域は国内12件、不明1件で、感染経路は性的接触が12件(異性間10件、異性間および同性間1件、詳細不明2件)でした。性別は男性9件、女性4件でした。直近6か月以内の性風俗産業の従事歴または利用歴がある報告は11件でした。
- 15 百日咳:10歳未満が8件(ワクチン接種歴あり6件、なし2件)、10歳代が2件(ワクチン接種歴あり1件、不明1件)、20歳代が3件(いずれもワクチン接種歴不明)、40歳代が5件(ワクチン接種歴なし1件、不明4件)、50歳代が2件(いずれもワクチン接種歴不明)、60歳代が3件(いずれもワクチン接種歴不明)、70歳代が1件(ワクチン接種歴不明)の報告がありました。
- 16 風しん:検査診断例16件、臨床診断例1件が報告されています。10歳未満1件(ワクチン接種歴あり)、20歳代4件(ワクチン接種歴あり1件、不明3件)、30歳代4件(ワクチン接種歴あり1件、なし2件、不明1件)、40歳代6件(ワクチン接種歴なし3件、不明3件)、50歳代2件(いずれもワクチン接種歴不明)でした。男性14件、女性3件でした。
- 17 麻しん:検査診断例2件が報告されています。いずれも40歳代男性で、ワクチン接種歴不明でした。

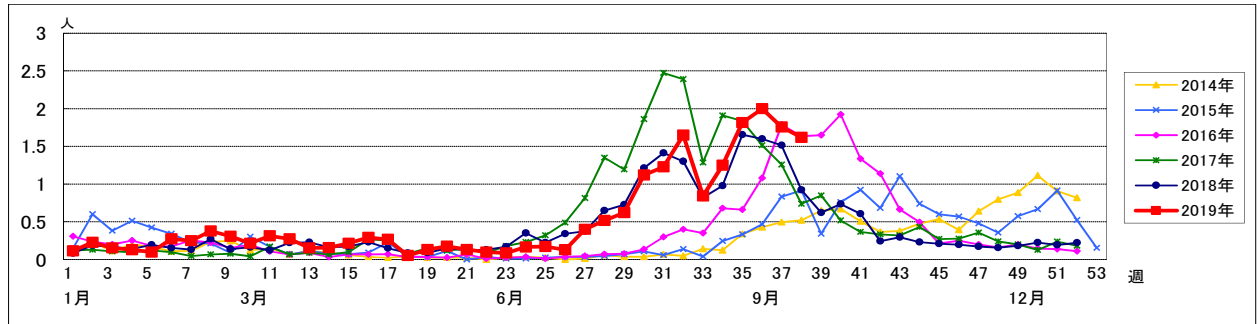
◇ 定点把握の対象

報告週対応表	
第35週	8月26日～9月1日
第36週	9月2日～9月8日
第37週	9月9日～9月15日
第38週	9月16日～9月22日

1 手足口病: 2019年は0.05から0.10で推移していましたが、第20週にて定点あたり0.35と増加を開始し、第26週にて6.98で流行警報発令基準値(5.00)を上回り、第28週で18.01にて最大値となり、第38週は2.42となっています。今年も過去に流行した2017年、2015年の同時期を大きく上回って推移しています。報告は少なくなっていますが、依然として流行警報は続いています(警報解除基準:2.00)。



2 RSウイルス感染症: 第27週にて定点あたり0.40と増加し、第35週で1.81にて最大値となり、第38週は1.62となっています。



3 性感染症(8月)

性器クラミジア感染症	男性:21件	女性:26件	性器ヘルペスウイルス感染症	男性:5件	女性:11件
尖圭コンジローマ	男性:5件	女性:3件	淋菌感染症	男性:10件	女性:2件

4 基幹定点週報

	第35週	第36週	第37週	第38週
細菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ肺炎	1.25	0.33	0.33	0.33
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)	0.00	0.00	0.33	0.00

5 基幹定点月報(8月)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	11件	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2件
薬剤耐性緑膿菌感染症	0件	-	-

【 感染症・疫学情報課 】

◇ 病原体定点からの情報

市内の病原体定点は、小児科定点:8か所、インフルエンザ(内科)定点:4か所、眼科定点:1か所、基幹(病院)定点:4か所の計17か所を設定しています。

検体採取は、小児科定点とインフルエンザ定点では定期的に行っており、小児科定点は8か所を2グループに分けて毎週1グループで実施しています。

眼科と基幹定点では、検体採取は対象疾患の患者から検体を採取できたときにのみ行っています。

〈ウイルス検査〉

9月に病原体定点から搬入された検体は、小児科定点43件、内科定点13件、基幹定点15件、眼科定点5件で、定点外医療機関からは7件でした。

10月7日現在、ウイルス分離13株と各種ウイルス遺伝子29件が検出されています。

表 感染症発生動向調査におけるウイルス検査結果(9月)

主な臨床症状 分離・検出ウイルス	上 気 道 炎	下 気 道 炎	イン フル エン ザ	咽 頭 結 膜 熱 (ア デ ノ 感 染 症 含 む)	胃 腸 炎	手 足 口 病	無 菌 性 髄 膜 炎	口 内 炎	発 疹 症	流 行 性 筋 痛 症	発 熱
インフルエンザ AH1pdm型		1	3								
インフルエンザ AH3型			3								
インフルエンザ B(ビクトリア)型			2								
アデノ 3型	1			1							
アデノ 41型					1						
ヘルペス								1			
コクサッキーA 6型						2					
コクサッキーA 16型						1					
コクサッキーB 3型							1 2				
Echo-11											1
パレコ 3型									1	1	
パラインフルエンザ 1型		1									
パラインフルエンザ 2型	1	1									
パラインフルエンザ 4型		1									
ヒューマンメタニューモ		2									
RS	1	10									
ライノ	1	2									
合計	1 3	1 17	8	1	1	3	1 2	1	1	1	1

上段:ウイルス分離数/下段:遺伝子検出数

〈細菌検査〉

9月の「菌株同定」依頼は、基幹定点から腸管出血性大腸菌2件、腸管病原性大腸菌1件、腸管毒素原性大腸菌1件、大腸菌3件、サルモネラ属菌1件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌5件、ナイセリア属菌2件、ノカルジア2件、放線菌1件となっており、非定点からは、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌7件、非結核性抗酸菌3件、劇症型溶血性レンサ球菌1件、肺炎球菌1件の依頼がありました。

保健所からは、腸管出血性大腸菌11件、カンピロバクター1件の依頼がありました。

「分離同定」に関しては、基幹定点からレプトスピラ2件、非定点から抗大腸菌LPS抗体3件、保健所からレジオネラ1件の検査依頼がありました。

小児科定点からは、A群溶血性レンサ球菌3件、百日咳菌1件の検査依頼がありました。

表 感染症発生動向調査における細菌検査結果(9月)

菌株同定	項目	検体数	血清型等
基幹定点	腸管出血性大腸菌	2	O157:H7 VT1 VT2 (2)
	腸管病原性大腸菌	1	O112ac (1)
	腸管毒素原性大腸菌	1	O24:H- ST1b (1)
	大腸菌	3	O166 (1)、O143 (1)、O153 (1)
	サルモネラ属菌	1	<i>Salmonella</i> Panama (1)
医療機関	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	5	<i>Enterobacter cloacae</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)、 <i>Klebsiella (Enterobacter) aerogenes</i> (1)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Klebsiella oxytoca</i> (1)
	ナイセリア属菌	2	<i>Neisseria gonorrhoeae</i> (2)
	ノカルジア	2	<i>Nocardia abscessus</i> (1)、 <i>Nocardia asiatica</i> (1)
	放線菌	1	<i>Rothia aeria</i> (1)
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌	7	<i>Enterobacter cloacae</i> (5)、 <i>Klebsiella pneumoniae</i> (1)、 <i>Escherichia coli</i> (1)
	非結核性抗酸菌	3	<i>Mycobacterium abscessus</i> subsp. <i>abscessus</i> (3)
	劇症型溶血性レンサ球菌	1	B群溶血性レンサ球菌 (1)
非定点	肺炎球菌	1	<i>Streptococcus pneumoniae</i> (1)
	腸管出血性大腸菌	11	O157:H7 VT1 VT2 (3)、O157:H7 VT2 (2)、O157 VT1 VT2 (4)、O26:H11 VT1 (1)、O121:H19 VT2 (1)
	カンピロバクター	1	<i>Campylobacter jejuni</i> (1)

分離同定	項目	材料	検体数	同定、血清型等	
医療機関	定点	レプトスピラ	尿・全血	2	不検出 (nested-PCR) (2)
	非定点	抗大腸菌LPS抗体	血清	3	抗O157LPS抗体検出 (1)、 不検出 (2) (国立感染症研究所)
保健所	レジオネラ	喀痰	1	不検出 (1)	

小児科サーベイランス	項目	検体数	同定、血清型等
小児科定点	A群溶血性レンサ球菌	3	TB3264 (1)、T型別不能 (2)
	百日咳菌	1	不検出(LAMP、培養) (1)

【 微生物検査研究課 細菌担当 】

衛生研究所WEBページ情報

横浜市衛生研究所ホームページ(衛生研究所WEBページ)は、平成10年3月に開設され、感染症情報、保健情報、食品衛生情報、生活環境衛生情報等を提供しています。

今回は、令和元年9月のアクセス件数、アクセス順位、電子メールによる問い合わせ、WEB追加・更新記事について報告します。

なお、アクセス件数については市民局広報課から提供されたデータを基に集計しました。平成31年3月26日より、新しいホームページへの移行に伴い、URLの変更が行われ、平成31年4月以降のアクセス件数は、新しいホームページでの集計となります。

1 利用状況

(1) アクセス件数

令和元年9月の総アクセス数は、205,190件でした。前月に比べ約5%減少しました。主な内訳は、横浜市感染症情報センター^{*1}69.4%、保健情報14.3%、検査情報月報3.9%、生活環境衛生2.9%、食品衛生2.5%、薬事1.6%でした。

^{*1} 横浜市では、衛生研究所感染症・疫学情報課内に横浜市感染症情報センターを設置しており、横浜市内における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、これらを速やかに提供・公開しています。

(2) アクセス順位

9月のアクセス順位(表1)を見ると、感染症に関する項目が、大半を占めています。

1位は、「大麻(マリファナ)について」、2位は、「横浜市感染症情報センタートップページ」、3位は、「EBウイルスと伝染性単核症について」でした。また、8位には、「水痘(水疱瘡)・带状疱疹について」が入っています。

表1 令和元年9月 アクセス順位

順位	タイトル	件数
1	大麻(マリファナ)について	9,471
2	横浜市感染症情報センタートップページ	8,905
3	EBウイルスと伝染性単核症について	3,977
4	B群レンサ球菌(GBS)感染症について	3,949
5	トキソプラズマ症について	3,665
6	衛生研究所トップページ	3,414
7	手足口病について	3,182
8	水痘(水疱瘡)・带状疱疹について	2,758
9	リステリア症について	2,727
10	電子パンフレット「疥癬(かいせん)ってなあに？」	2,721

データ提供:市民局広報課

「大麻(マリファナ)について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/hokenjoho/wadai/marijuana.html>

「横浜市感染症情報センタートップページ」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/idsc.html>

「EBウイルスと伝染性単核症について」に関連する情報

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kurashi/kenko-iryo/eiken/kansen-center/shikkan/alphabet/ebv1.html>

(3) 電子メールによる問い合わせ

令和元年9月の問い合わせは、8件でした(表2)。

表2 令和元年9月 電子メールによる問い合わせ

内容	件数
リステリア菌について	1
性感染症について	1
ライノウイルスについて	1
EBウイルスについて	1
サルモネラ菌血症について	1
サイトメガロウイルスについて	1
種痘について	1
伝染性単核症について	1

2 追加・更新記事

令和元年9月に追加・更新した主な記事は、11件でした(表3)。

表3 令和元年9月 追加・更新記事

掲載月日	内容	備考
9月 3日	第25回横浜市衛生研究所施設公開	更新
	全国熱中症患者救急搬送状況(2019年)	更新
	感染症に気をつけよう(9月号)	掲載
9月 4日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版)	更新
	熱中症情報2019	更新
9月 9日	マラウイのこどもの定期予防接種について	更新
9月10日	全国熱中症患者救急搬送状況(2019年)	更新
9月13日	横浜市における蚊媒介感染症のウイルス検査結果(速報版)	更新
9月18日	全国熱中症患者救急搬送状況(2019年)	更新
9月25日	全国熱中症患者救急搬送状況(2019年)	更新
9月26日	横浜市風しん流行情報24号	掲載

【 感染症・疫学情報課 】